

現場実習指導者と教員の協働による福祉士養成実習プログラミング

ー福祉実習プログラム・モデル研究会の現状と課題ー

○ 関西福祉科学大学 都村尚子 (3861)

1. 研究目的

社会福祉士養成カリキュラムが改定され、現場実習指導も本年度より猶予期間を終えて、新カリキュラムの全面実施がなされている。その状況下で実習の内容を委ねている実習施設等では、実習プログラムの内容編成や運営面での困難さ等が問題となっている。何よりも学生がより複雑化する社会の要請に応えうる社会福祉士になるための一步を踏み出せるよういかに現場実習の枠組みを整えられるか、そしてそれを支える教員と実習受入れ側が目指す目標や理念を共有できるかが鍵と考える。そこで、関西福祉科学大学では、新カリキュラムに対応したより実践可能なモデルプログラムを作成するために「実習教育モデル研究会」を立ち上げた。ねらいは実習施設等の種別ごとにプログラムを開発し、その過程を教員と現場実習指導者が共有することで前述の課題等をクリアすることを目指した。本会は開始から約1年が経過し、全体で2年半の期間の折り返し地点を迎えている。そこで、本研究ではこれまでの経過と成果を整理し、今後の課題を明確にすることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究では、本学の実習担当教員22名と現場実習指導者15名の計37名で構成された「実習教育モデル研究会」のこれまでの活動報告を通して、新カリキュラムに対応した実習プログラムの提案と研究会の今後の課題を明らかにする。

3. 倫理的配慮

本研究では、日本社会福祉学会研究倫理指針に基づき、倫理的配慮を行った。

4. 研究結果

本モデル研究会の構成メンバーによって、これまで行った全体会議は2111年度に2回、2012年度現時点で1回の計3回である。この3回の全体会議に加えて種別毎の分科会をこれまで3回実施した。計6回の会を経て、作成したプログラム案の一つが次の表1となる。

5. 考察

今回、作成したプログラムを2012年度の現場実習においてすべての種別でパイロットプログラムとして学生各1名が実施し、その結果を経て種別ごとに検討、再調整を行うこととなる。プログラム作成にあたってはソーシャルワークを学ぶために必要な学習項目（「ソーシャルワークの柱」）をまとめ、そこから、「プログラムのねらい」を導き出したことに特徴的な視点がある。それらを現場実習指導者と共有することが現在、実習を行う際に現場が抱える様々な困難を解決する方向に導くものであると考える。さらに今後の課題として、このプログラムを運営する際の「実習マネジメント」に関する要綱を現場実習指導者と協働で作成することが質の高い現場実習を目指す上で不可欠であると考え、本年度後半より作成に入る予定である。

特別養護老人ホーム

表1

時期	プログラム	ねらい	具体的内容
実習前	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習先の設置根拠や対象となる分野の制度・サービスについての理解 ・実習先の地域概況(ニーズ、資源)の把握 ・実習先の理解 ・実習課題の明確化 ・実習に臨む基本的姿勢・態度を習得 ・実習先のクライアント(利用者)の理解 ・自己覚知 	<p>【事前オリエンテーションまで】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎実習計画書を作成する ◎レポート「私が社会福祉の道を志した理由」を作成する(事前オリエンテーションで提出する) ◎実習先の地域概況(ニーズ、資源)を調べる ◎実習先の概要を調べる ◎高齢者の障害・疾病について再学習する ◎ソーシャルワーカー倫理綱領を再学習する ◎ソーシャルワークの支援過程を再学習する ◎バイスティックの7原則を再学習する ◎介護保険法・老人福祉法・高齢者虐待防止法等を再学習する <p>【実習初日まで】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎レポート「自分史」(仮)を作成する
	事前オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・実習目的の明確化・共有化 ・実習先の概要・及び運営方針の把握 ・実習中の留意事項の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ○実習計画をプレゼンテーションをする ◎実習計画を擦り合わせる ◎事前学習で調べた実習先の概要を擦り合わせる ○実習先の見学を行う ◎実習中の留意事項および個人情報の取り扱い等について説明を受ける
実習中	職場実習	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の実態を統計的に把握 ・実習先の意思決定過程の理解 ・実習先の財政、運営方法等の組織構造の理解 ・実習先のある地域の社会福祉の全体的状況を把握 ・実習先のある地域のインフォーマルな社会資源の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ◎施設、法人、関係機関や利用者に関する講義、資料を閲覧する(法人理念・沿革、統計資料、財務、組織、建築物、防災などに関する) ◎併設サービスの概要説明、業務全般の体験学習する ◎関係機関を訪問(社協、コミセン、地域包括、病院など)する ◎対象の様子を理解・コミュニケーションを行う ○上記の学習を受けて、レポートを作成する
		巡回	<ul style="list-style-type: none"> ・対象(利用者、グループ、地域等)の理解
	職種実習	<ul style="list-style-type: none"> ・職場における相談員、社会福祉士の役割の理解 ・職場における他職種、他職員の役割と業務の理解 ・各職種内・間の会議の運営方法の把握 ・関連機関・施設の業務や連携状況の把握 ・社会福祉専門職の価値・倫理の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ◎実習先における相談員・社会福祉士像の説明を受けて、存在の意義について話し合う ◎他職種(ケアワーカー、医師、看護師、栄養士、OT・PTなど)の業務の見学・同行及び質疑応答を行う ○業務関連、サービス関連の会議に列席する ◎生活相談員、ケアマネージャー、社会福祉士の業務に同行する ○中間報告会を実施(ここまでのふりかえり、修正点の有無の確認等)する
		巡回	
	ソーシャルワーク実習	<ul style="list-style-type: none"> ・対象(利用者、グループ、地域等)との関わり方の理解 ・対象(利用者、グループ、地域等)へのアセスメントの方法の理解 ・個別支援計画等、様々な計画の策定方法の理解(プランニングまでを主として) ・対象(利用者、グループ、地域等)に関する支援プロセスの理解 	<ul style="list-style-type: none"> ◎利用者の代表的な疾病、後遺症、コミュニケーション方法について学習(講義、ロールプレイ、など)する ◎施設ケアプランを閲覧し、その方法、内容について学ぶ ◎アセスメント、プランニングを学習(利用者へのシートを活用しての情報収集、個別面接、プランニングなど)する ○模擬カンファレンスの実習を行う
		巡回	
<ul style="list-style-type: none"> ・本人・家族等との面接の進め方の理解 ・職場におけるチームアプローチのあり方の理解 ・利用者の人権尊重の具体的方法についての理解 ・施設内・外における研修参加の重要性の理解 ・各種の行事の意義・目的・運営方法の理解 ・地域の組織化の方法等についての理解 ・ソーシャルアクションについての理解 		<ul style="list-style-type: none"> ◎入退所、入退院諸手続きについて学習する ◎面接同席、家族面談に同席する ○委員会活動に列席する ◎成年後見ケースの講義を受ける ◎各種行事の企画、計画、実施の過程に参加する ◎教室活動、ボランティア関連、地域の会議に同行する ○職員研修会等に参加する ○施設内の実際の支援に関する課題の抽出と改善策を提案する ○ターミナルケアに関する講義を受ける 	
巡回		巡回指導(4回目)	
後実習	学習事後	<ul style="list-style-type: none"> ・課題達成度の点検 ・実習体験の言語化 	<ul style="list-style-type: none"> ◎実習での具体的な体験や課題達成度をふりかえり、自己評価する ◎実習体験を実習報告書にまとめる

◎:基本的に達成するべき項目 ○:達成することが望ましい項目

*上記の表を転記、複写、利用の際は関西福祉科学大学福祉・保育実習室にご連絡ください。